

平成 29 年度茨城県教育研修センター外部評価委員会

1 外部評価委員会委員名簿

所 属 及 び 職 名	氏 名
国立大学法人茨城大学 教育学部長	生 越 達
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部総括研究官	橋 本 昭 彦
独立行政法人教職員支援機構 事業部長	古 川 聖 登
株式会社茨城新聞社 代表取締役社長	小田部 卓
株式会社日本旅行 水戸支店長	関 洋 一
水戸市立千波中学校 校長	大 高 美 子
茨城県立笠間高等学校 校長	稲 見 和 子
茨城県立水戸高等特別支援学校 校長	岡 部 しのぶ

2 実施計画・結果

第 1 回外部評価委員会	
開催日	平成 29 年 7 月 24 日（月曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 教育研修センターの概要について・ 平成 28 年度事業実績について・ 平成 29 年度事業計画について・ 平成 28 年度外部評価委員会の評価結果について・ 事業評価に関する様式等について・ 質疑応答
第 2 回外部評価委員会	
開催日	平成 29 年 11 月 1 日（水曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 研修講座の紹介・ 研修講座の参観・ 研修講座に関する意見交換等
第 3 回外部評価委員会	
開催日	平成 30 年 2 月 21 日（水曜日）
議 事	<ul style="list-style-type: none">・ 平成 29 年度各事業の実績及び成果について・ 外部評価委員による事業評価

平成29年度外部評価委員会評価票の集計

次の各項目について、該当するものを選んでください。

- A：そう思う
- B：どちらかといえばそう思う
- C：どちらかといえばそう思わない
- D：思わない

1 研修センターの事業について

- ① 各事業の内容が具体的で分かりやすくなっているか。
- ② 教職員のライフステージに即した研修体系になっているか。
- ③ 研修事業について

ア 研修講座は、教職員の資質能力の向上及び指導の改善につながっているか。

イ 受講者のニーズを把握した研修内容になっているか。

ウ 所員の専門性の向上は図られているか。

- ④ 研究事業について

ア 各研究分野における内容は、国及び県の教育施策を反映した喫緊の課題に対応しているか。

イ 研究成果は、学校教育活動に生かされているか。

ウ 研究発表会は、参加者にとって満足感が得られるものであるか。

- ⑤ 校内研修支援事業は、学校現場の校内研修の活性化及び課題解決に貢献しているか。

- ⑥ 相談事業は、児童生徒・保護者等の問題の解決へ向けて適切に対応しているか。

- ⑦ 教育情報の収集及び提供に関する事業は、教職員の多様な要望に応えているか。

- ⑧ 研修センターの内部評価について

ア 教育研修センターが実施している各事業の達成目標、達成度評価は、適切であるか。

イ 内部評価は、適切に行われているか。

2 施設設備の整備等について

- ① 受講者の健康管理・安全管理体制は、確立されているか。

- ② 施設設備の維持管理が十分行われているか。

- ③ 障害者に対して十分配慮されているか。

- ④ 危機管理体制が確立されているか。

- ⑤ 清掃の状況は行き届いているか。

3 外部評価委員会について

- ① 開催回数及び時期（7月・10月・2月）は、適切であるか。

- ② 開催内容（施設見学・研修講座参観等）は、適切であるか。

- ③ 評価のための資料は、適切であるか。

- ④ 評価票の項目及び評価方法は、適切であるか。

人数(人) (計8人中)			
A	B	C	D
7	1	0	0
4	4	0	0

7	1	0	0
4	4	0	0
4	4	0	0

7	1	0	0
6	2	0	0
6	2	0	0
7	1	0	0
5	3	0	0
0	7	1	0

6	2	0	0
7	1	0	0

1	5	2	0
5	3	0	0
2	6	0	0
3	5	0	0
7	1	0	0

6	1	1	0
7	1	0	0
5	3	0	0
3	5	0	0

平成 29 年度茨城県教育研修センター 第 1 回外部評価委員会記録

日 時	平成29年 7 月 24 日（月曜日）午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで
場 所	茨城県教育研修センター第 1 研修室
出 席 者	<p>○外部評価委員</p> <p style="margin-left: 2em;">生越 達 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">橋本 昭彦 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">古川 聖登 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">小田部 卓 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">関 洋一 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">大高 美子 委員</p> <p style="margin-left: 2em;">岡部しのぶ 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p style="margin-left: 2em;">所長 安藤 昌俊</p> <p style="margin-left: 2em;">次長 熊田 勝幸</p> <p style="margin-left: 2em;">次長兼教職教育課長 菅又 章雄</p> <p style="margin-left: 2em;">企画管理課長 吉田 孝則</p> <p style="margin-left: 2em;">教科教育課長 辻 武晴</p> <p style="margin-left: 2em;">情報教育課長 渡邊 政美</p> <p style="margin-left: 2em;">教育相談課長 田部井 悦子</p> <p style="margin-left: 2em;">特別支援教育課長 大川 行彦</p> <p style="margin-left: 2em;">企画管理課指導主事 岡野 敏昌</p> <p style="margin-left: 2em;">企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 所長あいさつ 3 委員委嘱 4 出席者紹介 5 委員長・副委員長の選任 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育研修センターの概要 (2) 報告 <ol style="list-style-type: none"> ア 平成28年度事業実績 イ 平成29年度事業計画 ウ 平成28年度外部評価委員会の評価結果 エ 事業評価に関する様式等 (3) その他 7 閉会

1 開会

2 所長あいさつ

3 委員委嘱

委嘱状を交付し，委員を委嘱した。

4 出席者の紹介

外部評価委員会委員及び茨城県教育研修センター事務局職員を紹介した。

5 委員長・副委員長選任

委員長に生越達委員を，副委員長に小田部卓委員を選任し，承認された。

6 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

(1) 教育研修センターの概要

事務局から資料1の教育研修センターの概要について説明後，次のような質疑応答があった。

○ 事業別予算の教育相談費について，人件費分を差し引いて比較すると，今年度の増減はどのようになっているのか。

● 嘱託職員が主査に変わったことにより人件費は別予算となった。人件費分を差し引いた教育相談費の増減については，相対的にはプラスになっていると受け止めている。

○ 減額の項目が多いが，増額になっている校内研修費は，力を入れているということか。

● 県全体としては厳しい財政状況なので，通常通り事業を展開する場合は，シーリングとして前年度比で縮減する仕組みである。センター全体で見ると，今年度は，「いばらき教員養成セミナー」「茨城大学教職大学院との連携」「思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修講座」を新しい事業として立ち上げているので，その分の予算は若干増額になっている。

(2) 報告

事務局から資料2の平成28年度事業実績について説明後，次のような質疑応答があった。

○ 講座数について，計画数が98講座，実施数が91講座であるが，この7講座の差はなぜか。

● 基本研修の新規採用では，計画数が5講座で実施数が3講座，6年次では，計画数が9講座で実施数が7講座，10年経験者では，計画数が8講座で実施数が5講座となっている。これは学校栄養職員や寄宿舍指導員，実習助手の講座に該当者がいなかったため，講座を計画したが実施しなかったということである。

○ 希望研修講座実施状況を見ると，算数科授業力向上研修講座と数学科授業力研修講座は，定員に達していない。これに対して，校内研修支援では算数，数学の訪問が多い。この結果は矛盾しているように思えるが，理由として何が考えられるか。

- 校内研修支援で算数、数学が多いことについては、算数、数学の研修を重視している小中学校や市町村教育委員会が多いので、約80件前後の訪問実施件数になっていると考えられる。また、算数、数学の希望研修講座の受講者が少なかったことについては、一昨年度に廃止した算数、数学の希望研修講座を昨年度復活させたが、夏季休業期間に開催できなかったことにより想定した定員を大きく下回る結果になったと考えている。今年度は、算数科授業力向上研修講座も100人を超える受講者数である。
- 校内研修支援の参加者延べ人数について、中学校は前年度比で増加している。これに対して、小学校と県立学校は前年度比で減少しているが、何か理由はあるのか。
- 中学校の参加者延べ人数が増えたことについては、技術・家庭科や美術科など教科担当教員が少人数の教科の場合、近隣の学校に呼びかけてもらったり、教育委員会単位で研修を実施させてもらったりすることで、1回の訪問に人数が集まるようになったことが大きな要因と考えられる。
- 昨年度、研究発表会の参加者が過去最多となった理由は何か。
- 特徴的なことは、高等学校と特別支援学校からの参加者が増えたことである。障害者差別解消法が制定され、センター的な役割を果たしている特別支援学校や各高等学校において、合理的配慮の必要性を感じていることが参加者増につながったと考えられる。また、管理職の研修会や教育事務所単位の集まりなどで広報させていただいたことにより、研究発表会に興味を持たれたことが参加者増につながったと感じているので、今年度も広報を続けていきたい。
- 研究発表会のポスターをいただくなど広報活動が活発であったが、研修センターの広報努力もあったのではないか。
- 数値目標を設定する県職員の取組があり、当センターでは、研究発表会の参加者増を目標に掲げ、これまで宣伝していなかったところにもポスターやチラシを配付し、広報に力を入れたという経緯がある。

事務局から資料3の平成29年度事業計画について説明後、次のような質疑応答があった。

- 運営方針については、「学校と教育研修センターの一体化」と「教員の養成・採用・研修の一体化」という極めて高い目標を設定しているが、我々委員はどのような所を成果として見ればよいのか。また、成果はどのような形で表れることを想定しているのかをお聞かせ願いたい。
- 「学校と研修センターの一体化」については、先生方が要望する研修が当センターで行われなければならないと考えている。小・中学校では、約5割の先生方が当センターの研修を受けているので、県立学校の先生方の受講者の数を増やしていくというのが「学校と教育研修センターの一体化」の判断材料の一つになるのではないかと考えている。
- 「教員の養成・採用・研修の一体化」については、大学1，2年生を対象とした「いばらき教員養成セミナー」や大学3，4年生と講師、若手教員を対象とした「いばらき輝く教師塾」に参加した教員志望者を本県の採用につなげていくことで、今後の教員選考試験志願者の増加というのが判断材料の一つにな

るのではないかと考えている。

- 「学校と教育研修センターの一体化」について、道徳の校内研修支援が100件のニーズがあったところ、訪問は60件だったというように、ニーズに応じきれなかったものを把握し、対応することも必要なのではないかと。
- 今年度の校内研修支援の道徳については、全てに対応することができなかった。しかし、同一市町村の学校が同じようなテーマで訪問を要請してきた場合には、市町村教育委員会と連絡を取り、市町村単位の研修にすることで訪問件数を減らし、参加人数は維持できるような対応に努めている。
- 高等学校や特別支援学校の先生方にも聞きたいと思わせるような講座ということだが、講座の満足度や意見をどの程度講師にフィードバックしているのか。講座のレベルアップを図るとすれば、受講者の生の声をそのまま伝えるということが講師を育てることになるのではないかと。
- 各講座で受講後にアンケートを行い、集約し、担当した指導主事に回覧することで、受講者からの意見を見逃さずに読み取り、改善につなげている。講師の方にどのように伝えるかについては、今後検討していきたい。
- 平成29年度事業計画の特別支援教育の推進の中で、「若手教員研修講座に『個々に応じた授業実践のためのレポート作成の進め方』を事前の動画配信で実施」とあるが、この動画配信は積極的にやっていいと感じている。実際に動画配信を行って、どのような意見や反響があったのかを知りたい。
- 講座で初めてレポート作成についての講義をするのではなく、短い動画によりレポート作成の1年間の流れを事前学習できるようにしている。事前学習できるようにしたことで、講座中に活発な質問が出るなどの効果があった。
- 特別支援学校の若手教員研修に教科指導の研修が入ったが、特別支援学校の教員は教科指導の研修を受ける機会が少ないので、動画配信されると若手教員だけでなく、多くの先生方が研修できるので動画配信を広めてほしい。

事務局から資料4の平成28年度外部評価委員会の評価結果及び、資料5の事業評価に関する様式等について説明したが、質疑応答はなかった。

(3) その他

事務局から今年度の外部評価委員会の予定について説明後、次のような意見があった。

- 初任者研修について、初任者研修の第1日が入学式の翌日だったので、担任をしている初任者は、入学式の翌日に担任がいらないという状況になった。また、第6日は終業式の翌日で、持参物に指導案があり、初めてのあゆみを必死に作成した後、終業式の日には指導案を作成しているという状況があった。さらに、複数の初任者がいる学校では、研修で複数の教員がいなくなるので学校運営としても非常に大きいことである。次年度は、研修日と研修体系について検討していただきたい。

7 閉会

平成 29 年度茨城県教育研修センター第 2 回外部評価委員会記録

日時	平成29年11月 1 日（水曜日） 午前10時から午前11時30分まで
場所	茨城県教育研修センター 中会議室
出席者	<p>○外部評価委員</p> <p>生越 達 委員 橋本 昭彦 委員 古川 聖登 委員 関 洋一 委員 大高 美子 委員 稲見 和子 委員 岡部 しのぶ 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター</p> <p>所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 菅又 章雄 企画管理課長 吉田 孝則 教科教育課長 辻 武晴 情報教育課長 渡邊 政美 教育相談課長 田部井 悦子 特別支援教育課長 大川 行彦 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次第	<p>1 開会</p> <p>2 所長あいさつ</p> <p>3 研修講座紹介</p> <p>4 研修講座参観</p> <p>(1) 学校組織マネジメント研修講座</p> <p>(2) 中堅教諭等資質向上研修講座（小・中・高）：〔選択研修〕教育相談分野</p> <p>(3) 若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）：情報教育分野</p> <p>5 研修講座に関する意見交換等</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>

1 開会

2 所長あいさつ

3 研修講座紹介

- ・センタートップページに掲載した研修の様子を視聴
- ・いばキラTVの動画で研修の様子を視聴

4 研修講座参観（講座説明及び参観）

- ・学校組織マネジメント研修講座
- ・中堅教諭等資質向上研修講座（小・中・高）：〔選択研修〕教育相談分野
- ・若手教員〔初任者〕研修講座（小学校）：情報教育分野

5 研修講座に関する意見交換等（○は委員，●は事務局を表す）

教育研修センター（以降，センター）研修講座参観後，次のような質疑応答があった。

（1）マネジメント研修講座について

- 企業同様，学校においてもマネジメントの考え方が重要であると感じた。

（2）中堅教諭等資質向上研修講座（小・中・高）：〔選択研修〕教育相談分野について

- 各先生方が聞き手役と話し手役になりきって相談技法を実践しており，効果があると感じた。
- 座席の位置や相談の進め方等，企業で行う相談技法と同様であることを確認できた。
- 研修の中で相談技法を録音していたが，研修室での録音環境に問題はないか。
- 機器の性能が向上しているため録音状態は良い。聞き取りにくい部分は，スピーカーも準備して対応している。

（3）若手教員研修〔初任者〕研修講座（小学校）：情報教育分野について

- 分かりやすく丁寧に計画されており，受講している先生方は，楽しみながら研修していた。今後，学校内で他の教職員に周知することを考える必要がある。
- ICT活用については，中堅教員に苦手意識があるので，若手教員だけでなく，中堅教員にも対象を広げて研修を計画してほしい。
- 機器の活用方法等，興味深い内容であった。
- 学校現場の課題としては，ICT機器の環境整備とICT教育を推進するリーダー養成である。
- 研修で活用しているICT機器は，各学校で整備されているのか。
- 市町村によって状況が異なり，各学校では十分整備されているとはいえないが，代替機器の紹介もしている。

（4）長期研修について

- アクティブ・ラーニングによる授業を積極的に実践している他県の授業を参観したが，同様の研究を長期研修生が行っており，先進的であると感じた。
- 研究成果が廊下に掲示されており，研修に来た先生方が参考にできるのでよい。
- 構想段階での発表会などを行うことはあるのか。
- 研究初期段階では，研究計画検討会や研究計画発表会，研究の途中では，研究内容検討会を行いながら研究を進めている。

（5）その他

- 研修方法については，少人数制で体験的であり，一人一人の学びにつながると感じた。研修は講義中心というイメージがあるので，体験的な研修が多いことをPRできるとよい。
- 事前研修やアンケートの要望への対応，マネジメント研修への事務職員の参加など，時代の要請に即した内容や方法が工夫されていると感じた。
- 大会議室の吊り下げ型のテレビは映るのか。
- 現在は映らない。

6 その他

外部評価委員会の今後のスケジュールについて（熊田次長）

7 閉会

平成 29 年度茨城県教育研修センター第 3 回外部評価委員会記録

日時	平成30年 2 月21日（水曜日） 午前10時から午前11時30分まで
場所	茨城県教育研修センター第 1 研修室
出席者	<p>○外部評価委員 生越 達 委員 橋本 昭彦 委員 古川 聖登 委員 小田部 卓 委員 関 洋一 委員 稲見 和子 委員 岡部 しのぶ 委員</p> <p>○茨城県教育研修センター 所長 安藤 昌俊 次長 熊田 勝幸 次長兼教職教育課長 菅又 章雄 企画管理課長 吉田 孝則 教科教育課長 辻 武晴 情報教育課長 渡邊 政美 教育相談課長 田部井 悦子 特別支援教育課長 大川 行彦 企画管理課指導主事 岡野 敏昌 企画管理課指導主事 小林 豪</p>
次第	1 開会 2 所長あいさつ 3 議事 (1) 平成29年度各事業の実績及び成果 (2) 外部評価委員による事業評価 (3) その他 4 閉会

1 開会

2 所長あいさつ

3 議事（要旨）（○は委員，●は事務局を表す）

(1) 平成29年度各事業の実績及び成果

・事務局から説明

(2) 外部評価委員による事業評価

【1 研修センターの事業について】

- 事業評価シートの達成目標については，研修のねらいや受講者の達成目標が具体的に記述されているものが多くなっている。
- 達成度評価では，質問項目が受講者の達成度を聞いていないものもあり，達成目標と達成度評価，事業評価を整合させる必要がある。
- 達成目標に対して客観的に達成度を評価できるよう改善していきたい。また，研修後の追跡調査も検討したい。

- 希望研修は、先生方が受講したいと思うようなネーミングの工夫が必要ではないか。
- ベテラン教員のモチベーションを上げられるような研修の充実が図られるとよい。
- ICTやアクティブ・ラーニングに関する研修は、ベテラン教員にも受講してもらえるよう、参加しやすい工夫が必要である。
- 中堅教員やベテラン教員にも興味をもってもらえるような内容の講座を計画している。興味をもってもらえる講座名については、今後検討していきたい。
- 10年以降の中堅教員は協働しながら学校運営に関わっていくという視点が重要であるので、協働して学校運営に関わるような研修も取り入れていただきたい。
- 来年度は、校内研修支援にマネジメントの分野を設け、学校の課題に対応できるようにしたいと考えている。
- 女性の活躍のためには、管理職の意識を変えること、早い段階でキャリアデザインを提示することが必要である。
- ワーク・ライフ・バランスについては、中堅研修の中で全員の先生方に研修していただいている。また、新任管理職の研修では、教員の勤務時間の管理について取り扱っている。県教育委員会でも働き方改革に取り組んでいるが、今後の研修講座についても働き方改革を進めながら研修効果を高める講座運営を工夫する必要があると考えている。
- LGBTについての研修ニーズが高くなっている。先生方が自信を持って指導できるような研修も必要ではないか。
- 人権教育についての研修として、基本研修や職務研修で行っている。今日的課題に対応できるよう内容の充実を図りたい。
- 長期研修生の研究主題が似ているものが多いので、課題としていることや目標としていることが見える研究主題になるとよいのではないかと。
- 長期研修生の主体的な研究なので、何を研究しているのかが見えやすい主題となるように助言していきたいと思う。

【2 施設設備の整備等について】

- アンケート結果を見ると、空調関係の要望が挙げられている。研修の環境として、照明と音響、空調は大切であるので、施設の年数に応じたメンテナンスが必要ではないか。
- 予算の関係上、空調施設の更新は予定していない。大研修室や大会議室など暖房空間の広い研修室は、暖まるまでに時間がかかるため、運転時間を早めて対応している。今後、大型ヒーターの購入も検討している。
- 学校の業務改善については、ある程度共通化を図ることが必要になるのではないかと。
- 今年度、県立学校には校務支援システムが導入され、校務の効率化が進められている。
- 評価票の「③ 障害者に対して十分配慮されているか」などの項目は、資料から評価することが難しい。
- 正面玄関の右側の入り口はスロープになっており、車椅子も設置している。また、特別支援教育棟には、身障者用トイレも各階に設置している。資料に施設設備の図面を入れるなど、設置状況が分かるような資料を検討したい。

【3 外部評価委員会について】

- 評価票の項目や評価方法については、アンケート項目と自由記述があるので評価方法としては適切である。
- 評価のための資料については、重点を置いている事業が分かるように示してもらえると評価しやすい。

(3) その他

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明

4 閉会